



新町市場・新町センター街 店舗位置図

現在の周辺地図

戦後の市内商業の出発点

新町市場・新町センター街

約100店舗を有する市内初の大型小売市場
 劇場や映画館などの娯楽施設も併設

新町市場の誕生と積極的な商業手法

「新町市場」は阪急電鉄宝塚線の南側、猪名川近くの水田を埋め立て、昭和31年に開業しました。2年後には「新町センター街」が開業。市内で初めての小売市場として誕生しました。

市場を作ったのは尼崎市の企業家で、尼崎市内の商人をはじめ各地の商人により、画期的な方法で商売が行われました。劇場や映画館といった娯楽施設が市場に併設されたのもその一つ。また、無料の買い物バスを運行するなど、その積極的な手法は川西の商業に大きな影響を与えました。

川西能勢口の台所に

食料品や日用品など、新町市場ではそろわないものはないほど、さまざまな商店が立ち並びました。新町市場と新町センター街を合わせると約100店舗の大型市場。池田の商店街へ買い物に出ている市民も利用するようになりました。

市内はもちろん市外からも客を呼び、33年に開業した「川西中央市場」と共に、市民の台所として繁盛し、川西の商業

阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅の南東。現在、みつなかホールとマンションが建つその場所は、かつて「新町市場・新町センター街」と呼ばれる商業地でした。この場所こそ、戦後、川西で商業に大きな変化をもたらした最初の市場だったのです。

発展に大きく寄与したのです。

新町市場で和菓子屋を経営していて、当時の店舗位置図(上図)を作成した大口照男さんは「現在からは想像できないほどの一大商業地でした。テレビがまだ珍しかった時代ですから、テレビ食堂という今では珍しいお店もあったんですよ」と懐かしそうに話します。

市場の衰退と再開発

昭和30年代末期から40年代にかけて、久代の川西SPセンターを皮切りに市内各地に小売市場が開業。これにより、顧客の数は減少し、新町市場も大きな打撃を受けました。

さらに、現在の川西能勢口駅前に大型量販店が進出。顧客の流れが駅前に集中したことも原因となり、昭和50年以降は廃業する店舗が増え、衰退の一途をたどることになります。

そのような状況の中、新町地区の整備のため、56年から再開発事業に取り組むことに。平成4年から除去工事に着手し、8年にはみつなかホールとマンションが完成。現在の駅周辺の整備につながっています。

CHECK & QUIZ 次の空欄(○の中)を埋めてください。
 1:身○にある見守り 2:○んどう賞

クイズ正解者の中から市産物のいちじく1箱を5人に。引き換えは8月17日(月)に開催のいちじく即売会の会場で(正解者多数の場合は抽選。当選者のみに引換券を送付します)。応募方法:ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、今号で興味のあった記事と感想を書き、8月10日(月)(消印有効)までに〒666-8501・広報課「クイズ」係へ。
 ※7月号の正解は(車)(ナ)で、83通の応募がありました。

6月末現在の人口

男	76,384人 (-34)
女	84,038人 (-36)
計	160,422人 (-70)
世帯数	69,007世帯 (+4)

川西の元気いっぱいキャラクター きんたくん



オリジナル
 出生届が
 できたよ